2024年12月期（第119期）
業績概要

2025年2月7日
日東精工株式会社
（証券コード 東証プライム:5957）

2024年3月
健康経営優良法人
（ホワイト500）
4年連続認定

2022年3月
なでしこ銘柄
初選定

連結業績ハイライト

単位：百万円／%	FY2023 通期		FY2024 通期		前期比		FY2024 業績予想比（2024/11/13）		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	予想金額	増減額	増減率
売上高	44,744	100.0	**47,069**	100.0	2,325	5.2	48,200	△ 1,130	△ 2.3
売上総利益	10,183	22.8	11,240	23.9	1,057	10.4			
販売管理費	7,568	16.9	7,914	16.8	345	4.6			
営業利益	2,614	5.8	**3,326**	7.1	712	27.3	3,300	26	0.8
経常利益	2,835	6.3	**3,573**	7.6	738	26.0	3,500	73	2.1
税金等調整前当期純利益	2,830	6.3	3,442	7.3	611	21.6			
親会社株主に帰属する当期純利益	1,734	3.9	**2,199**	4.7	464	26.8	2,100	99	4.7
一株当たり当期純利益（円）	46.95		60.18				57.46		

決算のポイント

売上高

- 制御事業のエネルギー関連向け分析装置、欧米のPFAS規制に対応する分析装置、人手不足を背景にした自動車向け部品検査機、中国・東南アジアでファスナー事業のOA機器向け製品が好調。加えて、産機事業のねじ締め機の価格転嫁が進んだことから、前期比5.2%の増収。

営業利益

- 産機事業のねじ締め機の価格転嫁が進んだこと、高付加価値の分析装置の出荷が進んだことから、前期比27.3%の増益。

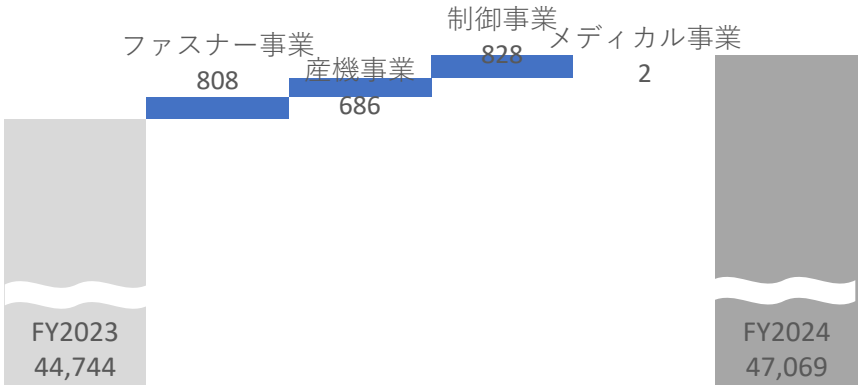
海外

- 分析装置の販売が欧州拠点で好調だったことに加え、商流見直しにより中国でも分析装置の販売を開始し売上増加。中国・東南アジアでOA機器向けのファスナー製品も好調に推移し、円安による為替影響もあり売上高が増加。

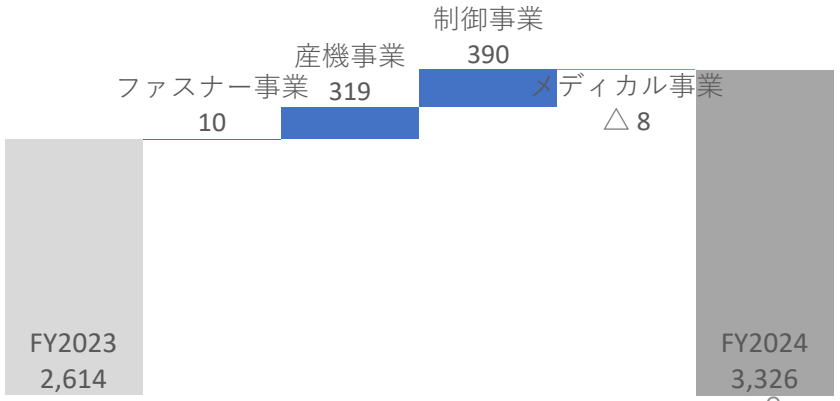
セグメント別売上高・営業利益（連結）

単位：百万円／％		FY2023	FY2024	前期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	32,855	33,664	808	2.5
	営業利益	1,625	1,636	10	0.7
	利益率	4.9	4.9		
産機事業	売上高	5,955	6,642	686	11.5
	営業利益	822	1,141	319	38.9
	利益率	13.8	17.2		
制御事業	売上高	5,915	6,743	828	14.0
	営業利益	278	669	390	140.4
	利益率	4.7	9.9		
メディカル事業	売上高	17	19	2	15.2
	営業利益	△ 112	△ 120	△ 8	－
	利益率	△ 654.4	△ 612.3		

セグメント別売上高増減　（百万円）

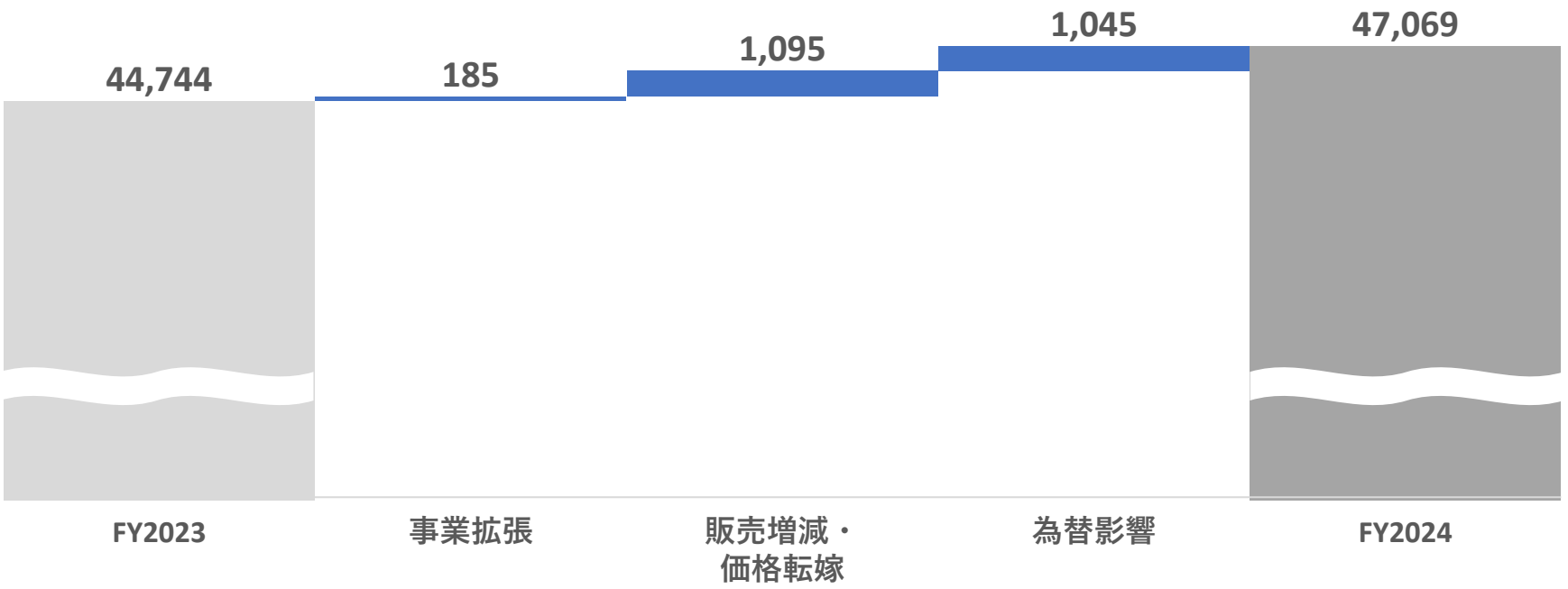


セグメント別営業利益増減　（百万円）



売上高　増減要因

（百万円）



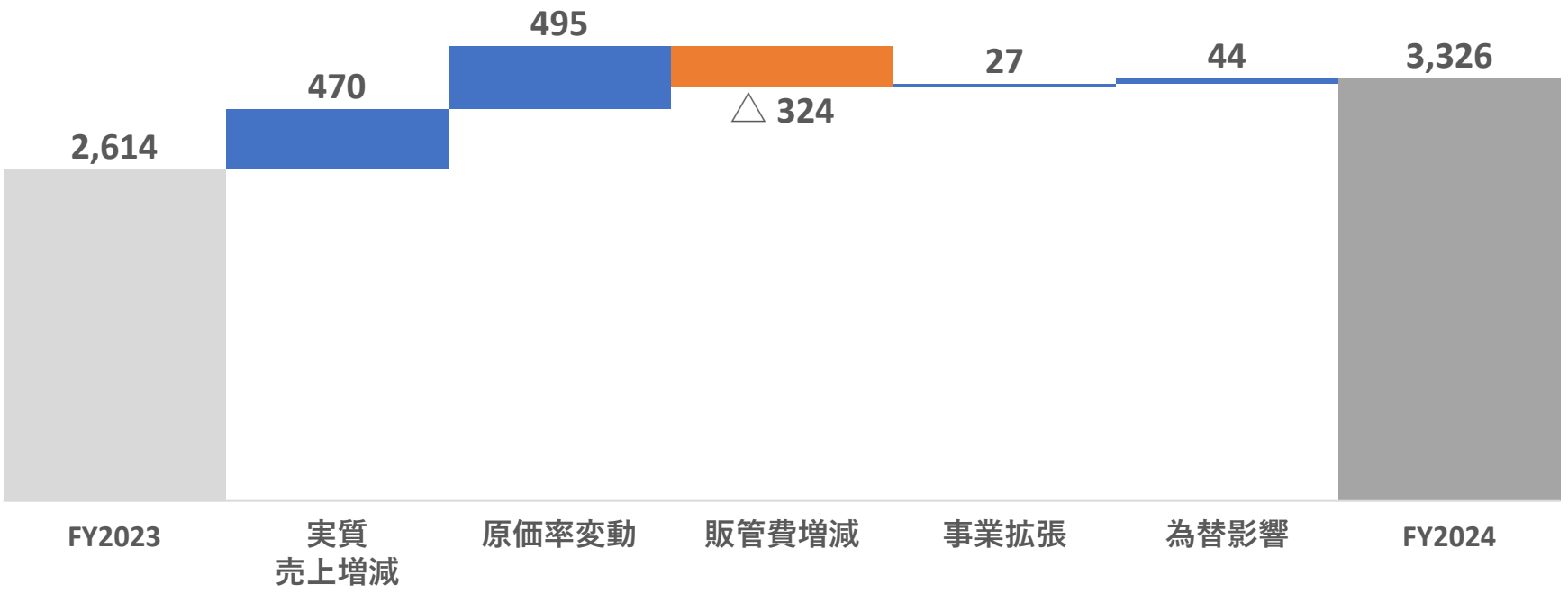
事業拡張　2023年4月に開設した日東精工アナリテックヨーロッパが貢献。

販売増減　制御事業のエネルギー関連・環境分野向け分析装置、自動車向け部品検査機、ファスナー事業のOA機器向け製品が好調。

価格転嫁　ねじ締め機関連の価格転嫁が進んだ。その他は引き続き交渉中。

営業利益　増減要因

（百万円）



原価率　変動要因

ねじ締め機関連の価格転嫁の効果が表れ原価率が改善。
また、高付加価値の分析機器の出荷が進んだことも寄与。

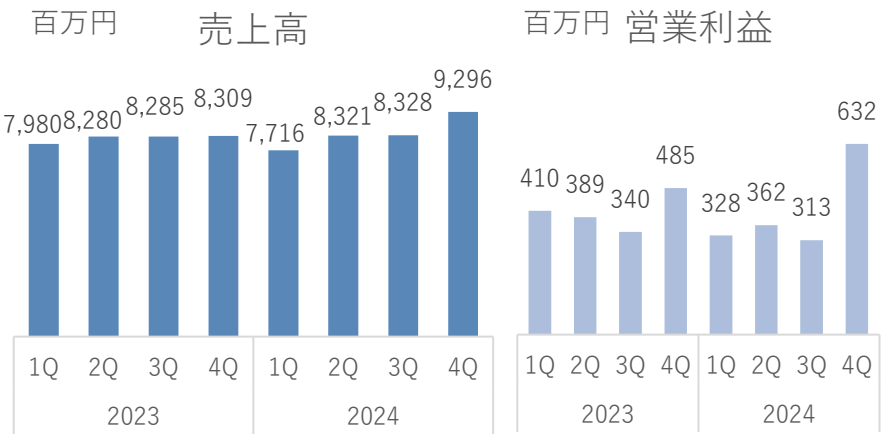
販管費　変動要因

賃上げにより労務費が前年比約3.8%（約126百万円）増加。

事業拡張

2023年4月に開設した日東精工アナリテックヨーロッパが貢献。

セグメント別業績概要～ファスナー事業



単位：百万円／％	FY2023 通期	FY2024 通期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	32,855	33,664	808	2.5
自動車	13,052	13,259	206	1.6
住宅・建築	7,466	7,268	△ 198	△ 2.7
電機・電子部品	4,583	4,830	246	5.4
雑貨	2,140	2,085	△ 54	△ 2.6
ＩＴ・情報機器	1,254	1,745	490	39.1
精密機器	1,098	1,371	272	24.8
医療	289	302	12	4.4
その他	2,970	2,801	△ 168	△ 5.7
営業利益	1,625	1,636	10	0.7

概況

- 売上高は、建設業界の計画遅延の影響を受けるも、主力の自動車のバッテリ向け需要、東南アジアでの家電・情報機器需要により、前期比で増収。
- 営業利益は、主材料の線材のほか副資材費・賃金・物流費などの上昇に対する価格転嫁の効果が4Q後半から徐々に表れ、前期比で微増。
- 11月に樹脂コーティングのゆるみ止めねじ「NCグリップ」、12月に頭部埋め込み型のクリンチングスタッドボルト「JOISTUD-FH」を発売。

業界別コメント

◆自動車

- 国内自動車メーカの型式認証問題に起因する生産停止の影響を受けつつも、CASE・各種電動車向けに、オリジナル品のゆるみ止めねじ「ギザタイト」、座金組み込みねじ「アスファ」、締結粉飛散防止ねじ「CPグリップ」、「精密プレス製品」が堅調。 軽量化・薄板化の締結に貢献する「JOISTUD」、バッテリ向けの異種金属接合「AKROSE」も引き合い活発。

◆住宅・建築

- 国内の需要はあるものの、業界の深刻な人材不足・資材高騰による計画遅延などの影響で減少。 2024年発売したばね座金・平座金を不要にできる新製品「カップボルト」を拡販中。

◆電機・電子部品

- 欧州、中国での消費低迷の影響はあるものの、東南アジアでの家電需要が回復傾向にあり増加。AI需要によりデータセンター向けに「CPグリップ」が好調。

◆雑貨

- ゲーム機市場の巣ごもり需要が落ち着き精密ねじの売上が減少していたが、4Qから需要が増。今後も継続見込み。

◆ＩＴ・情報機器

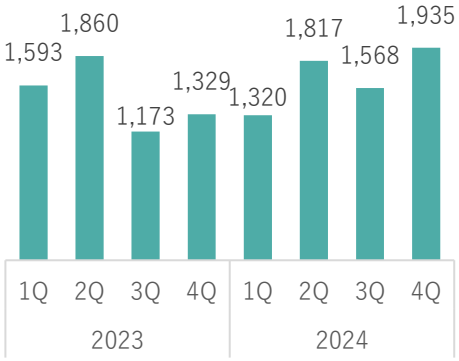
- 中国、マレーシア、インドネシアでOA機器向けが増加。

◆精密機器

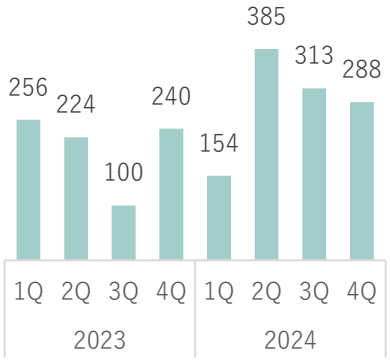
- 国内でレンズ等の映像・光学向けが増加。

セグメント別業績概要～産機事業

百万円　売上高



百万円　営業利益



単位：百万円／％	FY2023 通期	FY2024 通期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	5,955	6,642	686	11.5
自動車	3,410	3,626	215	6.3
電機・電子部品	1,026	1,036	10	1.0
エネルギー関連	199	218	18	9.0
住宅・建築	180	186	6	3.3
遊技機	212	156	△ 56	△ 26.3
ＩＴ・情報機器	178	125	△ 52	△ 29.2
雑貨	17	64	47	269.2
その他	728	1,227	498	68.3
営業利益	822	1,141	319	38.9

概況

- 売上高は、世界全体のEV販売の減速や大統領就任前の設備投資停滞の影響があるものの、主力の自動車業界で国内のねじ締め機需要が増加したこと、既存業界以外からも電動化需要、人手不足を背景にした自動化需要が高まったことから、前期比で増収。
- 営業利益は、ねじ締め機において2Qより価格転嫁が進み原価率が改善した影響で、前期比で増益。

業界別コメント

◆自動車
- 海外では米国での設備投資停滞、世界全体のEV販売減速の影響を受けたが、国内でCASE関連製品の増産や新設ラインに対応するねじ締め機が堅調に推移し増加。

◆電機・電子部品
- 前年の大型設備受注の反動を受けるも、空圧機器向け組立設備の増加により前期比で微増。

◆エネルギー
- スマートメータ、電力計向け設備の更新需要があり微増。

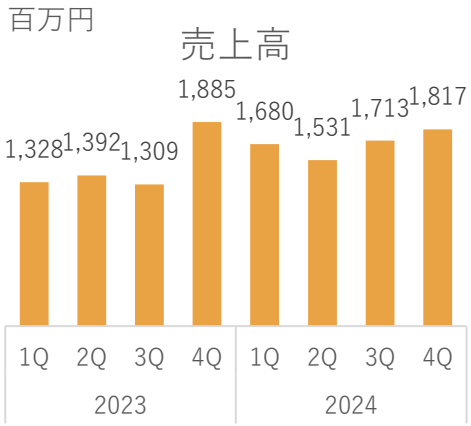
◆遊技機
- 前年の大型設備受注の反動で減少。

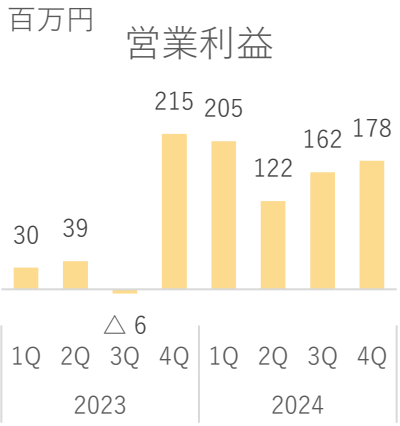
◆ＩＴ・情報機器
- 前年の韓国携帯電話向け受注の反動で減少。

◆雑貨
- チャイルドシートのねじ締め機を新たに受注。

◆その他
- 汎用エンジン用設備の大型案件、工業用ポンプ用設備、家具組立用設備、半導体設備メーカから受注があり増加。

セグメント別業績概要～制御事業





単位：百万円／%	FY2023 通期	FY2024 通期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	5,915	6,743	828	14.0
化学・薬品	1,412	1,481	68	4.8
エネルギー関連	900	1,212	311	34.6
自動車	411	727	316	76.9
環境	268	649	381	142.3
電機・電子部品	414	334	△ 80	△ 19.3
住宅・建築	438	309	△ 129	△ 29.5
造船	306	294	△ 11	△ 3.9
医療	181	153	△ 28	△ 15.6
食品	91	149	57	63.0
その他	1,489	1,430	△ 58	△ 3.9
営業利益	278	669	390	140.4

概況

- 化学・薬品、エネルギー関連を中心に分析装置が好調。加えて、環境分野でPFAS規制を背景にした欧州での分析装置販売、自動車向け部品検査装置の大型受注により、前期比で増収増益。
- 新製品開発、有機溶剤リサイクル事業の共同開発に加え、原価のみえる化、加工部品の内製化・組立生産効率化、販売価格の改定などを進める。

業界別コメント

◆化学・薬品
- 北米での分析装置の販売が堅調に推移。商流見直しにより中国子会社での販売を開始し、販路を拡大中。

◆エネルギー
- 中南米で石油精製向け水分・滴定計の特需があり増販。

◆自動車
- 部品検査装置MISTOLの大型受注により大幅増。また、電池材料など抵抗率計の需要が増加。

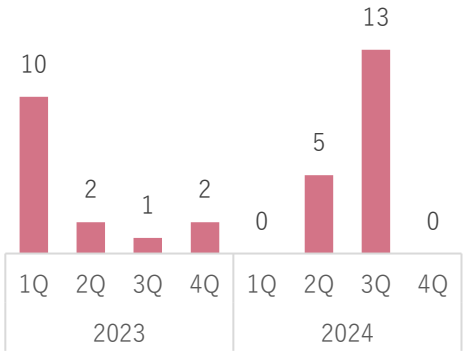
◆環境
- PFAS規制による有機フッ素の分析需要に2024年発売の新製品「自動試料燃焼装置 AOF/AQF-5000H」が対応し大幅増。環境配慮製品への関心からマイクロバブルへの問い合わせ増加中。

◆住宅・建築
- 地盤調査機「ジオカルテIV」は、戸建て住宅着工件数が伸びを欠く影響で低調に推移。3Qにタイ運輸省地方道路局へ初売上。

セグメント別業績概要～メディカル事業

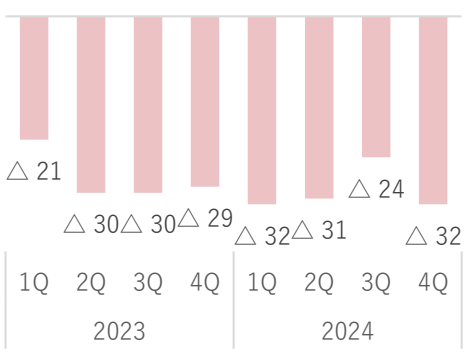
百万円

売上高



百万円

営業利益



単位：百万円／%	FY2023 通期	FY2024 通期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	17	19	2	15.2
医療	17	19	2	15.2
その他	–	–	–	–
営業利益	△ 112	△ 120	△ 8	–

概況

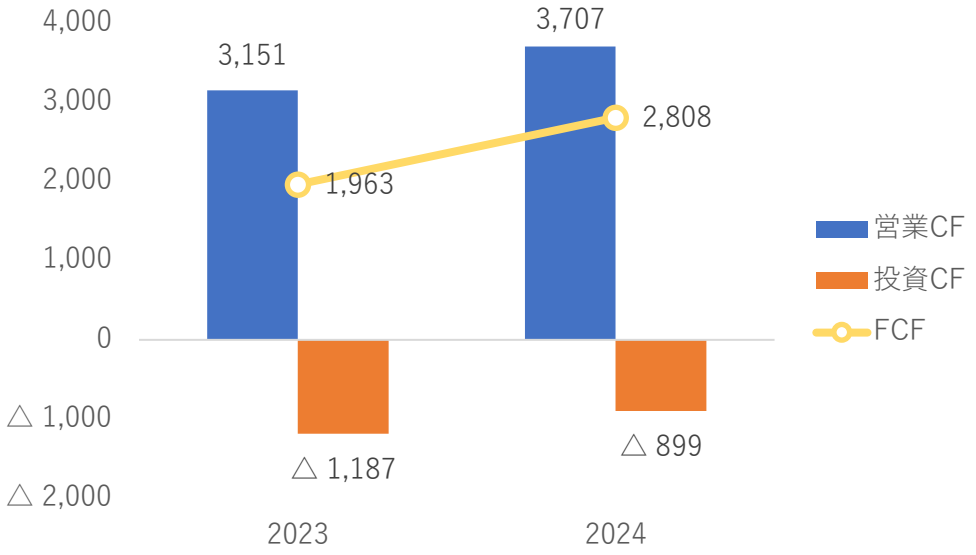
- 医療用照明器「フリーレッド」は、コロナ禍を境に顧客要望の高いコスト低減を図りつつ、市場ニーズの収集と提案活動を推進するも、本採用には至らず。今後も販社を通じたPR強化にも注力し、本採用を目指す。
- 「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」は、2023年の国内特許取得に続き、2024年7月に米国特許取得。他の主要6ヶ国へ申請済みの特許も順次取得予定。現在は一貫製造設備の整備、非臨床試験に向けた試料の製作、性能試験を進めるとともに、医療用製品販売に向けた許認可取得の準備など、上市に向けた取り組みを継続中。本年上期には製造体制構築へ向け医療機器の品質規格ISO13485を取得見込み。また、並行して本素材の適用可能性について情報収集を進める。
- 当社既存技術を活かした新たな医療機器の製造受託案件の獲得に向けた体制を構築中。

連結貸借対照表

単位：百万円／％	FY2023/4Q		FY2024/4Q		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
資産の部						
流動資産合計	33,822	63.4	36,504	65.7	2,681	7.9
現金及び預金	8,849	16.6	10,580	19.0	1,730	19.6
受取手形・電子記録債権/売掛金	12,794	24.0	13,318	24.0	523	4.1
棚卸資産	11,023	20.7	10,992	19.8	△ 30	△ 0.3
固定資産合計	19,521	36.6	19,099	34.3	△ 421	△ 2.2
有形固定資産	14,129	26.5	14,003	25.2	△ 126	△ 0.9
無形固定資産	999	1.9	864	1.6	△ 135	△ 13.5
投資その他の資産	4,391	8.2	4,231	7.6	△ 159	△ 3.6
資産合計	**53,344**	**100.0**	**55,604**	**100.0**	**2,260**	**4.2**
負債の部						
流動負債合計	12,901	24.2	13,200	23.7	298	2.3
支払手形・電子記録債務/買掛金	8,615	16.2	8,835	15.9	219	2.5
短期借入金（一年以内返済の長期借入・社債含む）	1,574	3.0	1,325	2.4	△ 249	△ 15.8
固定負債合計	4,040	7.6	3,812	6.9	△ 227	△ 5.6
負債合計	**16,941**	**31.8**	**17,012**	**30.6**	**71**	**0.4**
純資産の部						
資本金	3,522	6.6	3,522	6.3	－	－
資本・利益剰余金	29,400	55.1	30,793	55.4	1,393	4.7
自己株式	△ 1,562	△ 2.9	△ 1,778	△ 3.1	△ 216	－
純資産合計	**36,402**	**68.2**	**38,591**	**69.4**	**2,188**	**6.0**

連結キャッシュフロー計算書

単位：百万円／％	FY2023	FY2024		
	金額	金額	増減額	増減率
営業活動によるCF　※①	3,151	3,707	556	17.7
投資活動によるCF　※②	△ 1,187	△ 899	288	-
（フリーCF）　※①＋②	1,963	2,808	845	43.0
財務活動によるCF	△ 2,074	△ 1,426	647	-
現金及び現金同等物の増減額	△ 278	1,577	1,856	-
現金及び現金同等物の期首残高	8,305	8,027	△ 278	△ 3.4
現金及び現金同等物の期末残高	8,027	9,604	1,577	19.7



2．2025年12月期(第120期)業績予想

本資料に掲載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によりこの見通しと異なる場合があります。

連結業績予想

単位：百万円／％	FY2024		FY2025（予想）		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	47,069	100.0	50,100	100.0	3,030	6.4
営業利益	3,326	7.1	3,600	7.2	273	8.2
経常利益	3,573	7.6	3,700	7.4	126	3.5
親会社株主に帰属する当期純利益	2,199	4.7	2,300	4.6	100	4.6
一株当たり当期純利益（円）	60.18		63.46			

予想のポイント

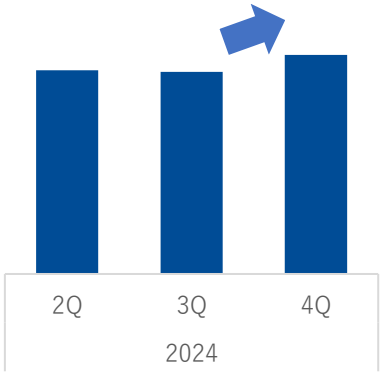
売上高

- 今期は、主力の自動車向けの国内販売は好調であるものの、海外市場は引き続き低調な状況が続く見込み。国内で得意分野である自動車のCASE関連向けファスナー製品がさらに伸長することに加え、精密部品の受注が高水準で推移しており、全体の売上は増加見込み。また、人手不足を解消する自動組立装置や自動検査装置の需要がさらに高まる予想。さらに、分析機器や有機溶剤リサイクル装置などの環境関連事業においても業績貢献が見込まれ、グループ全体の売上が押し上げられると予測。

営業利益

- 全事業共に価格転嫁がさらに進み、利益環境は好調を維持するものと予想。産機事業のねじ締め標準機やファスナーの高付加価値製品の販売比率を高め、前期の反動を受ける制御事業を全体で補完。材料見直しや工場再編による工場間輸送費の削減など変動費削減に向けた取り組みにより、その効果が徐々に表れてくると考えられる。これらの要素により、収益向上が推進される見通し。

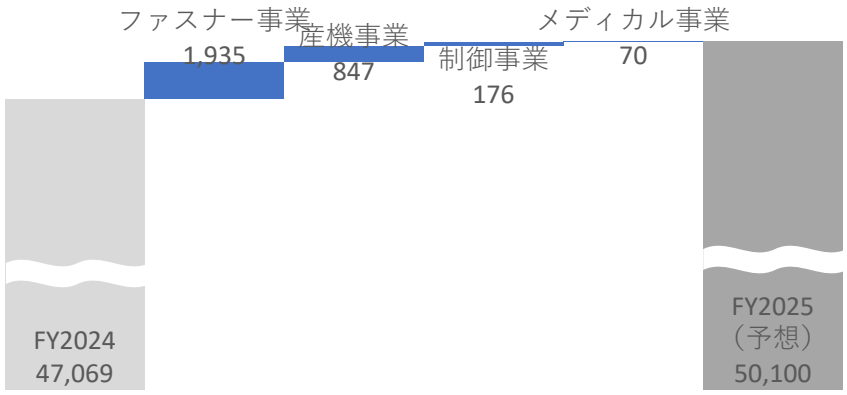
注残の推移



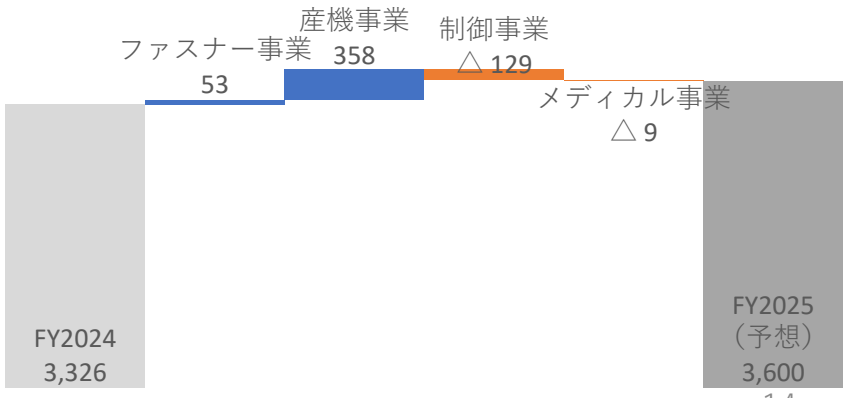
セグメント別売上高・営業利益予想（連結）

単位：百万円／%		FY2024	FY2025（予想）	前期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	33,664	35,600	1,935	5.8
	営業利益	1,636	1,690	53	3.2
	利益率	4.9	4.7		
産機事業	売上高	6,642	7,490	847	12.8
	営業利益	1,141	1,500	358	31.4
	利益率	17.2	20.0		
制御事業	売上高	6,743	6,920	176	2.6
	営業利益	669	540	△ 129	△ 19.3
	利益率	9.9	7.8		
メディカル事業	売上高	19	90	70	355.4
	営業利益	△ 120	△ 130	△ 9	―
	利益率	△ 612.3	△ 144.4		

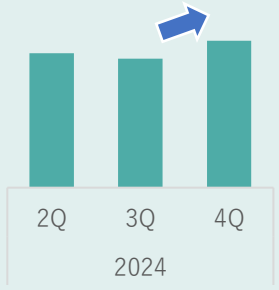
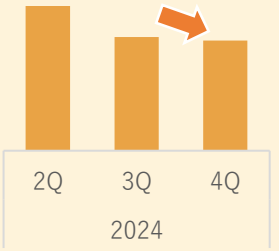
セグメント別売上高増減



セグメント別営業利益増減



セグメント別市場動向と取り組み状況

事業		主な市場動向	取り組み状況・今後の取り組み	注残の推移
ファスナー	自動車	日系メーカが各種電動車強化のため日本国内にバッテリ工場を新設予定。型式認証問題に起因する生産停止の余波はあるが、車両の軽量化、薄板化ニーズが続く。	自動車向けに「AKROSE」、「JOISTUD」シリーズ、住宅・建築向けに座金不要の新製品「カップボルト」の拡販を進める。また、工場再編による工場間輸送の削減、電力量削減などの製造コスト低減に取り組み、利益率改善を図る。	
	住宅・建築	国内の需要はあるものの、業界の深刻な人材不足・資材高騰により計画遅延などが発生。		
	雑貨	ゲーム機向けの受注増を見込む。		
産機	自動車	EV販売が減速しているもののHV販売の増加が続く見通し。また、ADASの標準装備が進みインバータ、先進安全システムECUなどの搭載車種拡大が見込まれECU関連の設備案件は増加傾向。	自動車においてはバッテリ拡販チームによる拡販を推進中。電力計の特殊機案件の受注に向け、生産能力拡大のための新たな協力工場の開拓も検討中。 中国・タイ現地法人で共同開発した低コスト型のアジアモデルを現地ユーザ、非日系ユーザへ拡販予定。本モデルは現地調達・生産による納期短縮メリットもアピール。	
	電機・電子	中国リスクと円安の影響により国内生産回帰。半導体業界の回復により得意とする半導体検査装置の受注が回復基調。		
	エネルギー関連	新メータの生産増強により各社で設備導入が進む見通し。		
制御	化学・薬品	LIB向けは中国を含む一部地域で需要が減速も、国内など次世代電池材料向け需要は継続の見込み。	電子材料やPFAS関連需要向けに自動試料燃焼装置の拡販とともに、安定供給体制を整える。人手不足を背景にした検査機関連の引き合い増に対応予定。 有機溶剤リサイクル事業は、けいはんな万博でデモ機出展を予定。	
	エネルギー関連	脱炭素による需要減の一方、SAF等再生燃料、合成燃料などの需要を見込む。		
	環境	欧州、米国でPFASの法規制により分析装置の需要が続く見込み。他地域や日本での需要増も期待。		
メディカル	開発計画	2024年7月の米国を皮切りに「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」の海外特許を順次取得予定。本製品の製造設備の整備並びに非臨床試験に取り組むとともに、 臨床試験の準備にも取り組み、医療機器製品の拡販や新製品の開発に努める。当社既存技術を活かした新たな医療機器の製造受託案件の獲得に向けた体制も構築中。		